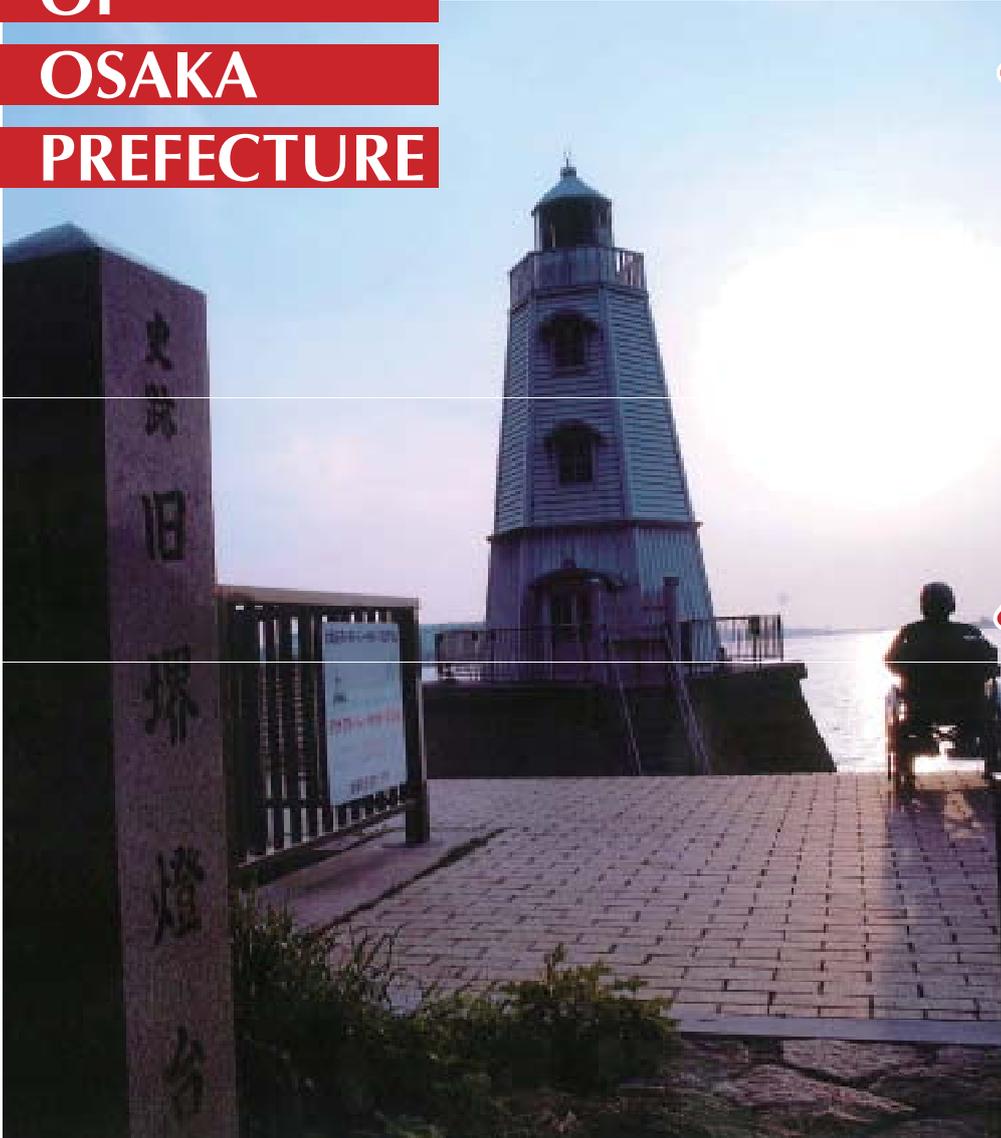


PORTS
OF
OSAKA
PREFECTURE

大阪府の

みなと
2012年1月
No.100



第33回「海の写真コンクール」大阪府知事賞・大阪府港湾協会会長賞
[夕暮れに何思ふ：安本章氏]

TOPICS

- ごあいさつ 1
- 東日本大震災の災害復旧・復興支援について 2
- 堺泉北港・阪南港テロ対策訓練を実施しました 4
- 泉北23号上屋が供用を開始 6
- 企業による森づくりが進行中 7
- 第72回九大港湾管理者港湾運営協議会開催 8
- 府政学習会×港湾局～海から見る大阪府営港湾～を開催 8

PORT NEWS

- 貿易実務セミナー開催 12
- WELCOME!世界からのお客様 12
- ようこそ大阪府営港湾へ～初入港のご紹介～ 13

EVENT

- 堺泉北港地元港湾振興会合同視察を実施 9
- 第38回堺港まつり開催 9
- 港湾施設見学会を開催 10
- 港湾施設の出前講座を開催 10
- 堺泉北港 みなと見学会実施 11
- 堺泉北港地元港湾振興会合同研修会開催 11

INFORMATION

- 在阪国家機関等に対する要望活動 13
- 運営委員会 13

TOPICS

ごあいさつ 1
東日本大震災の災害復旧・復興支援について 2
堺泉北港・阪南港テロ対策訓練を実施しました 4
泉北23号上屋が供用を開始 6
企業による森づくりが進行中 7
第72回九大港湾管理者港湾運営協議会開催 8
府政学習会×港湾局～海から見る大阪府営港湾～を開催 8

EVENT

堺泉北港地元港湾振興会合同視察を実施 9
第38回堺港まつり開催 9
港湾施設見学会を開催 10
港湾施設の出前講座を開催 10
堺泉北港 みなと見学会実施 11
堺泉北港地元港湾振興会合同研修会開催 11

PORT NEWS

貿易実務セミナー開催 12
WELCOME!世界からのお客様 12
ようこそ大阪府営港湾へ～初入港のご紹介～ 13

INFORMATION

在阪国家機関等に対する要望活動 13
運営委員会 13

ごあいさつ



大阪府港湾協会 会長 金盛 弥

当協会の会報誌である「大阪府のみなど」は、昭和39年(1964年)に第1号を発刊して以来、このたび第100号を発行するはこびとなりました。

これもひとえに、長年にわたる会員の皆様方をはじめ関係各位の多大のご支援とご協力によるものであり、心より厚くお礼申し上げます。

さて、未曾有の国難である東日本大震災から10ヵ月が過ぎ、復興のための施策議論が本格化しております。今回の震災は、大地震や津波から国民の生命・財産をいかに守るか、原子力エネルギーへの依存の是非など、私たちに様々な課題を投げかけております。

また、東北地方に集積するハイテク生産拠点の被災が、サプライチェーンで繋がる海外の生産をも停滞させ、海運にも大きな影響を与えました。加えて、ギリシャ問題に誘発されたユーロ圏の危機や異常な円高など、加速度的に進展するグローバル経済・金融活動は、先行きを不透明にさせております。

このような中、我が国の港湾を顧みますと、立地する製造拠点とともに戦後の高度成長を支え続けてきたものの、経済の長期低迷や中国など新興国の台頭もあり、現在は、相対的地位の低下が指摘されております。国際競争力を取り戻すため、国際コンテナ戦略港湾阪神港への集中的取組みに期待が寄せられており、大阪府の港もその一員として、内航定期航路網や内航フィーダー等を充実させるなど、阪神港の支援機能を高めていく必要があります。

一方で、大阪湾臨海部は、立地企業の皆様の絶えまぬ努力に加え、パネルベイの形成や太陽電池生産の拠点化など次世代産業の集積により、関西経済の活性化を先導しております。さらに弾みをつけるべく、ちきりアイランドや泉大津フェニックスの開発が進んでおり、大阪府港湾の重要性が益々高まっております。

当協会といたしましても、会員の皆様方と大阪府の間に立ち、大阪湾内諸港の動向を注視しつつ、従前にもまして活動内容を充実させ、皆様方とともに大阪府港湾の振興に努めて参りたいと考えております。

第100号の記念すべき会報誌の発行にあたり、常々貴重な原稿をお寄せいただいている方々に厚くお礼申し上げますとともに、今後とも当協会の事業推進により一層のご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

東日本大震災の災害復旧・復興支援について

大阪府港湾局では、東日本大震災で被災した岩手県大船渡港の復旧・復興支援のため、平成23年6月から平成24年3月末まで、常時3名(合計9名)を岩手県大船渡土木センターに派遣しておりますが、第1次派遣者よりその取組みについて報告いたします。



【大船渡港の被害状況】

6月1日、岩手県庁での派遣職員(11都府県54名)の激励式のため盛岡市内へ入り、その後、大阪府チーム(16名)は、大船渡市にある大船渡土木センターに向かうのですが、車窓から被災の状況を見ることなく土木センターに到着しました。

土木センター周辺は、海岸から少し離れた場所にあるため、被災地とは思えない普通の生活風景でしたが、海岸に近づいたとたんに状況は一変しました。

大船渡港の湾口部にある津波防波堤は、跡形もなく流され、港湾施設や港湾区域内の海岸保全施設の一部で、津波による施設の倒壊・流出もありましたが、主な被災事例は、地震による施設の沈下(平均1m前後、最大で約1m20~30cm)でした。

同じ岩手県の宮古港に派遣されたチームからの情報では、港湾施設の倒壊・流出が多かったように聞いていますので、『天然の良港』と言われる大船渡港の被災の特徴だと思います。



津波による被害状況と、その背後の津波被害を免れた高台の状況

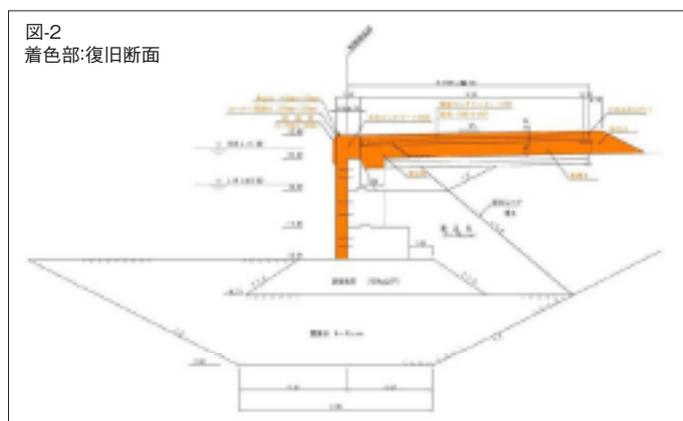
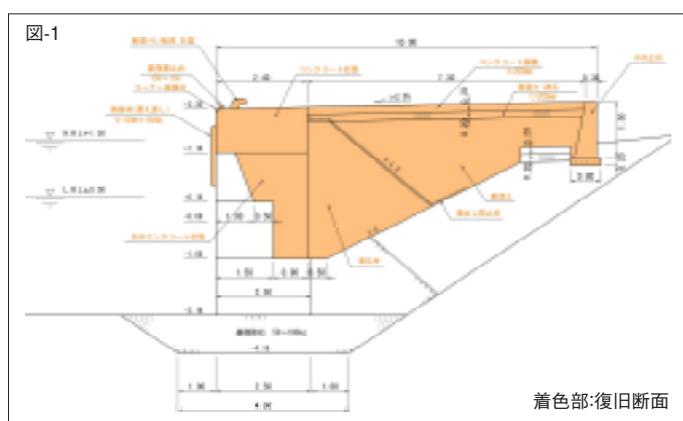
【災害査定業務】

岩手県での業務は、岩手県職員と共に今年度中の復旧工事発注を行うこととしており、先ず、国の災害復旧補助事業費を算定するため、我々は設計委託業者との復旧断面の検討、査定設計書の作成、災害査定実務を行いました。

港湾施設の復旧を考える場合、臨港道路のアスファルト舗装が、流出したような復旧以外、ほとんどの施設で構造物の安定計算から行うため、設計業務に非常に時間を要したことが印象的でした。

災害査定では、沈下した構造物を残した状態で、被災前の天端高さに復旧することを基本とし、構造物が安定する場合は嵩上げを行い、その方法で不安定の場合、経済性や施工性を考慮し、図1のように、既設構造物背後の撤去床掘を行った後、コンクリートを増し打ちする復旧方法や、図2のように既設構造物前面にコンクリートを増し打ちする計画を行いました。

但し、増し打ちするコンクリートの壁厚や水深によっては、増し打ちコンクリートの壁高が、高くなると不安定な構造となるため、図2のような復旧後、その部分が再度被災した事例も国土交通省の査定官から教えて頂き、既設構造物を残した状態での復旧方法の難しさを実感しました。



【派遣を終えて】

岩手県への派遣にあたり、業務遂行への不安はもちろんありましたが、それよりも、宿泊施設での共同生活(3~4人部屋)や公用車通勤(片道約40分)等、絶えず誰かと一緒に行動するプライベートの時間もない生活環境に耐えられるかが不安でした。

しかし、2~3週間もすれば、その生活に慣れる自分たちに不思議な感じを受けました。

その後、仕事本格化し、休日出勤も行う状況でしたが、復旧・復興に向けてみんなでやっている団結力と使命感に後押しされ、頑張れたと思います。

終わってしまえば3ヶ月の派遣期間も短く思え、「もう少し岩手県で頑張りたいな」という思いで、大阪に帰ってきました。

また、災害査定を終えた段階で離任したので、今後工事現場を担当し復旧・復興していく現場を実感できなかったことが、残念で心残りでもあります。

最後になりましたが、派遣に際し、大阪府での通常業務をカバーしてくれた職場の同僚や、休日に私費で激励に来てくれた上司など、関係の皆様には、様々な形での支援や応援をいただき感謝申し上げます。そして、大船渡港・岩手県をはじめ、被災地の一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げ派遣報告とさせていただきます。

堺泉北港・阪南港テロ対策訓練を実施しました

堺泉北港及び阪南港において、テロ対策総合訓練を実施しました。

堺泉北港では、平成23年10月26日(水)に大浜埠頭5号岸壁及びその前面海域において、阪南港では、11月18日(金)に新貝塚3号岸壁及びその前面海域において、堺泉北港保安委員会及び阪南港保安委員会の関係機関の連携・対応能力の更なる強化を目的として実施しました。

参加機関は、大阪府、警察署、海上保安署、税関、入国管理局、近畿地方整備局、近畿運輸局、動物検疫所、植物防疫所、大阪港運協会、大阪船主会、臨海防災協議会、船舶安全協議会、(社)大阪府タグ事業協会、第一警備保障(株)、東亜警備保障(株)等総勢約270名に及びました。

これらの訓練は、平成13年9月11日の米国同時多発テロを契機とした「改正SOLAS条約(海上人命安全条約)」に基づき施行された「国際船舶・港湾保安法」により、港湾におけるテロ防止等保安対策の強化の一環として実施したものです。

保安委員会委員長である井上大阪府港湾局長の挨拶の後、堺泉北港では、「テロ容疑者を乗せた貨物船が着岸し、同船からテロリストが上陸し逃走する」という想定のもと、今年度は、陸上における訓練を主体として実施しました。

一方、阪南港では、「テロ容疑者を乗せた貨物船から、容疑者1名が移乗したプレジャーボートを挟撃するとともに、その後、着岸した貨物船からもテロリストが上陸し逃走する」という想定のもと、初めて新貝塚3号岸壁にて、海上及び陸上の訓練を行いました。

参加者は、皆真剣で緊張感が漂う中、不審船の追跡・捕捉、船内搜索、手荷物検査、容疑者確保・搬送まで行い、訓練は無事終了しました。

今後も定期的に訓練を行い、実際の危機発生時において、迅速且つ的確に連携・対応出来るような体制の確保に努めていきます。



保安委員会委員長 井上大阪府港湾局長 挨拶
「テロ対策強化となるような訓練となる事を期待する!!」と力強く挨拶を行う局長



海保巡視艇及び水上警察警備艇による追跡
「小型船舶、止まりなさい!!!」



容疑者逃走!



容疑者検挙・制圧!



手荷物検査訓練「X線検査実施中」



港湾危機管理副担当官による講評

お知らせ

国土交通省告示により、立入制限区域への出入管理が強化されます。

平成13年9月11日に発生した米国の同時多発テロ事件を機に、国際埠頭施設でのテロ対策実施が、国際条約として義務付けられたことにより、府営港湾21岸壁では立入制限区域を設け、正当な理由なく立ち入ることを防止しています。

このたび、海外主要港湾におけるセキュリティ水準の向上、緊迫化するテロを巡る情勢を踏まえ、我が国のテロ対策をより一層徹底するために、出入管理強化を図るため国土交通省から告示がなされました。

告示概要とそれに対応する府営港湾の取組みは、次のとおりです。

○出入管理強化のポイント(告示概要)

- ・制限区域入構時に、本人・所属・目的の3点を確認する。
- ・上記3点確認は、100%(全入構者)実施する。
- ・本人・所属確認は、偽造防止措置が施された身分証明証により行なう。
- ・実施時期は、平成24年7月1日から。

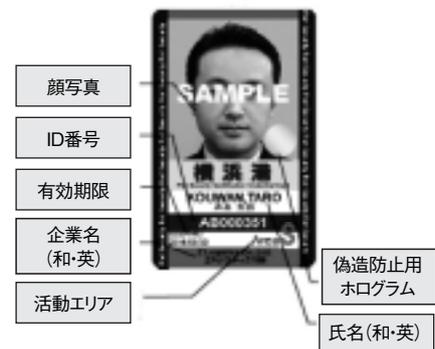
○府営港湾の取組み

- ・3点確認を確実にするため車両停止装置等の設置工事等を本年1月から実施します。
- ・府営港湾独自に、偽造防止措置が施された身分証明証を発行します。
申請その他の具体的な内容は、現在検討中ですが、平成24年4月頃から申請受付を始める予定です。
(別途3月頃から、アクセスポイントでチラシ配布等によりご案内します。)
- ・渋滞を避けるために、アクセスポイントの二車線化工事等を本年1月から実施します。

○港湾局からのお願い

- ・平成24年7月1日から告示に基づいて、3点確認を100%実施いたします。アクセスポイントでは、必ず一旦停止して身分証明証等をご提示ください。ご協力をお願いします。
- ・3点確認により、アクセスポイント付近での停滞や渋滞等が発生する恐れがあります。ご理解、ご了承ください。
- ・停滞や渋滞を解消するためにも、上記の身分証明証を申請・携帯ください。
- ・平成24年6月までは、現在の入構許可証が有効です。そのままご使用ください。

例(国のPSカード)



弊社は、大阪府などが出資して昭和48年に設立され、大阪府港湾局との強い連携と役割分担の下で、堺青果センターを初め、公的な上屋や中古車ストックヤードの整備・管理運営など、府営港湾の振興に寄与する種々の事業に携わっています。

近年、府が管理運営する上屋等の施設は、老朽化が進み、補修や改良工事のほか、新しい施設の整備実施を求める利用者からの要請が年々強くなっていますが、依然として厳しい財政状況下にある大阪府においては、こうした利用者からのニーズに対して満足な対応を図ることができない状況にあります。

そこで、弊社が大阪府に代わり、利用者ニーズに対応し、円滑で効率的な港湾物流の実現を図るため、汐見地区において、国の補助制度を活用した貨物積替円滑化施設「泉北23号上屋」を建設し、去る10月1日より供用を開始しました。

弊社は、今後、この上屋が物流の円滑化に貢献し、貨物横持ち輸送の解消と輸送車両の大型化によるコスト削減等に繋がることを期待しています。

また、今後においても大阪府の港湾施策に積極的に取り組み、府営港湾の振興と皆様に愛される港湾づくりに努めてまいります。

泉北23号上屋の概要

- 所在地 泉大津市汐見町107-1、108
- 敷地面積 9,128.08m²
- 構造規模 上屋本体 鉄骨造 地上1階建
機械室 コンクリートブロック造 下部消火水槽
- 建築面積 上屋棟 5,300m²(うち底面積1,300m²)
(本体) (4,000m² : 2,000m²×2室)

●建物の特徴

- ・雨天時作業 ⇒ 長尺庇 10m(岸壁側)
5m(臨港道路側)
- ・大型開口部 ⇒ 大型作業機械による貨物搬出入
(電動シャッター開口部 W7,700×H5,200)
- ・照度、省エネ対策 ⇒ LED照明(庫内、底下)
- ・防火対策 ⇒ スプリンクラー設備



泉北23号上屋全景



庫内の状況



汐見2号岸壁からの荷役状況

企業による森づくりが進行中

大阪府港湾局計画調整課計画グループ

堺泉北港堺第7-3区では、港湾局が環境農林水産部みどり・都市環境室、循環型社会推進室とともに森づくりを進めています。共生の森と名付けられた約100haの区画では、現在、府民の方や企業、NPO法人、行政機関などが力を合わせ、多くの苗木を植えているところです。これまでに、植樹祭を開催するなど広く府民の方の参加を得ることで、着実に森づくりを進めてきており、土がむき出しだった産業廃棄物処分地は、少しずつ大きな森に生まれ変わろうとしています。

この広大な土地を森に変えていくには、多様な主体の参加とその連携が重要です。特に企業は、個人には真似できない実行力を備えており、その協力は必要不可欠です。実際に、港湾局が事務局を務める「企業による森づくり連絡調整会」には、平成23年12月現在で18の企業、団体が参画しており、植樹や草刈りといった活動に参加、あるいはこれから活動に必要な資金や資材を提供といった形で、森づくりを直接的あるいは間接的に支援しています。

住友ゴム工業株式会社も上記連絡調整会の一員ですが、同社はこうした支援のほか、自ら森づくりを進めるという取り組みを、平成21年から開始しています。この取り組みは、社員およびその家族が一部の区画に植樹を行い、以降の管理を行っていくというもので、毎年その面積を広げているところです。

去る10月30日(日)には、通算3回目となる植樹活動を展開しましたが、今回は同社の会長も参加され、活動人数は過去最多の125人となりました。会長の記念植樹を皮切りに、参加者は、社員が事前に地ならしおよび区画割りを行った1,500㎡の土地に、ウバメガシやアラカシ、クヌギなどの苗木1,600本を手分けして植えました。これらの苗木は、自社の敷地内でドングリから育て上げたもので、敷地内には大量の苗木が、共生の森のほか様々な場所での植樹活動に備えて保管されているそうです。

植樹を終えた後は、参加者にお弁当と豚汁が振る舞われ、午後は共生の森の経緯や生きものに関するクイズといった環境学習が行われました。参加者は、長い年月をかけて産廃処分地を緑の空間に変えていくことや、自然の再生力によって多種多様な昆虫や野鳥が出現していることに感心した様子で、講師の話に聞き入っていました。

この日は、西日本電信電話株式会社グループによる植樹活動も、隣の区画で行われました。同グループも同様の取り組みを進めており、こちらは午前中にすべての活動を終え、1,000㎡の土地にネズミモチやクスノキなど330本の苗木を植えています。

近年、企業のCSR活動に対する関心が高まっていると言われています。実際にこのような植樹活動を行いたいという問い合わせは増えており、遠からずこの2社に続く企業が出てくるのが期待されます。

企業による森づくりは着実に進行しています。



第72回九大港湾管理者港湾運営協議会開催

大阪府港湾局経営振興課施設運営グループ

大阪府港湾局では、第72回九大港湾管理者港湾運営協議会を開催しました。

九大港湾管理者港湾運営協議会とは、港湾の管理運営上の諸問題を研究、協議することにより港湾行政の円滑化及び近代化を図ることを目的とするものであり、一部を除く国際拠点港湾14港により構成されています。

1日目の会議では、国土交通省港湾局もご出席頂き、港湾経営の民営化など、港湾管理者が直面する諸課題について議論が行われました。

2日目は、大阪府港湾協会にご協力を頂き、堺泉北臨海工業地帯や堺2区基幹的広域防災拠点整備事業などの視察を行いました。

開催日：平成23年10月27日(木)・28日(金)

開催場所：ホテルサンルート関空

構成港：苫小牧・室蘭・仙台塩釜・千葉・新潟・伏木富山・清水・四日市・堺泉北・姫路・和歌山下津・水島・広島・徳山下松

参加人数：48名

内容 ■あいさつ

開催港：大阪府港湾局長 井上 博睦

来賓：国土交通省港湾局総務課専門官 関 宏治 氏

■情報提供「港湾における地震・津波対策」

説明：国土交通省港湾局海岸・防災課減災対策係長 黒瀬 康夫 氏

■議 題

「港湾民営化の検討状況」「地震・津波対策について」「放射能測定について」他

■視 察

堺泉北港の海上視察、堺2区基幹的広域防災拠点及び

堺市立サッカーナショナルトレーニングセンター

主催 第72回九大港湾管理者港湾運営協議会(事務局:大阪府港湾局)

協力 近畿地方整備局大阪港湾・空港整備事務所、大阪府港湾協会、堺市立サッカーナショナルトレーニングセンター



府政学習会×港湾局 ～海から見る大阪府営港湾～ を開催

大阪府港湾局経営振興課経営振興グループ

平成23年10月7日(金)、府政のことを楽しく学んでいただくことを目的とした府政学習会を、府民文化部府政情報室と協力し開催しました。「府政学習会×港湾局～海から見る大阪府営港湾～」をテーマに募集したところ、総勢335名の応募をいただき、抽選で35名が選ばれ、当日は33名が参加されました。

学習会ではまず、大阪府港湾局の所有する船「はまでら」に乗船して、堺泉北港をめぐり、助松埠頭、堺泉北臨海工業地帯、堺旧燈台などを船上から見学しました。

その後、堺泉北港ポートサービスセンタービル2階の会議室において、「府営港湾及び港湾局事業のご紹介」及び「東南海・南海地震に伴う津波対策等について」と題して、港湾局職員による講義を行いました。

当日は晴天に恵まれ、参加された方々は船上見学の説明や講義に熱心に耳を傾け、質問も積極的に行われました。



EVENT...

堺泉北港地元港湾振興会合同視察を実施

堺港湾振興会

堺泉北港地元港湾振興会(泉大津・高石・堺)合同視察先は、これまで瀬戸内海や太平洋側の港湾視察がほとんどでしたので今年度は、環日本海ゲートウェイとして、外国貿易や内貿流通拠点として重要な役割を果たしている新潟港を10月27日(木)に視察いたしました。

新潟港は、東港区と西港区に分かれており、西港区には、佐渡汽船や小樽港との間に2万トン級の長距離フェリーが就航し、首都圏と北海道を結ぶ物流の基幹航路として重要な位置を占めています。

一方、今回視察いたしました東港区は、西港区の都市化が進み港湾の拡張が困難なことから、昭和38年に日本海沿岸の工業開発の拠点として整備され、昭和44年に開港されました。現在では、日本海最大の取扱貨物量を誇る国際コンテナターミナルとなり、釜山、青島、大連、上海との航路があり、まさに環日本海のゲートウェイとして重要な役割を果たしています。

取扱貨物量は27,822千トンで全国28位、ちなみに堺泉北港は61,918千トンで全国11位(いずれも港湾統計2009)となっていますが、外貿コンテナ取扱貨物量では新潟港が2,193千トン、堺泉北港が13千トンとなっています。

翌28日(金)は、佐藤食品工業(株)と新潟造船(株)の工場見学をさせていただきました。

佐藤食品工業(株)では、新潟県産こしひかりをはじめ、16品目ものパック入りご飯が全国の工場で1日70万食製造されており、今でも全国のJAから商品化の希望があるとのことでした。

一方、新潟造船(株)は、三井造船(株)の傘下であり新造船を年間5隻から10隻造っており、修理船は年間30隻から40隻手がけているとのことでした。

工場内を見学するといろんな器具や材料があり、そのなかで鋼板をバーナーで曲げている技術者を見ていますと、日本の造船技術はすごい「ものづくり」はすごいと実感しました。

今回の視察は、堺港湾振興会が当番幹事でしたが、視察全般があわただしかったのではないかと反省をしているところです。

参加された方々には本紙面をお借りして、御礼申し上げます。



第38回堺港まつり開催

堺港湾振興会

平成23年11月6日(日)第38回「堺港(みなと)まつり」を堺市堺区出島漁港「とれとれ市」に於いて開催いたしました。

当日はまさに秋晴れの中、延べ2000名とたくさんの方々にお越しいただきました。

小学生以下を対象とした大声大会では、堺海上保安署のご協力により優勝者を1日船長として、参加者とともに巡視艇「しぎかぜ」に乗り、体験航海を楽しんでいただきました。

また、来場者の皆様にも、丸高渡船のご協力により体験航海を実施し、沖では堺海上保安署の消防船「かいりゅう」の放水展示や普段あまり見る事のない堺泉北港の景色を堪能していただきました。

他にも、消防車の展示・記念撮影やバルーンショー、迫力のある和太鼓演舞などのステージショーでまつりを盛り上げていただき、似顔絵コーナーやフルーツ販売コーナー等でも行列が出来、堺港(みなと)まつりを盛大に終えることが出来ました。

ご支援、ご協力をいただきました堺市漁業協同組合連合会をはじめ、堺海上保安署や当日出演いただきました皆様、そして当日早朝よりお手伝いいただきました、堺港湾振興会会員企業の皆様に紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。



港湾施設見学会を開催

高石港湾振興会

高石市内の5小学校の4年生を対象に、総合学習の一環として、海や港に関心を持ってもらうことを目的に高石港湾振興会が、大阪府港湾局と大阪水上警察署の協力を得て、港湾施設の見学会を開催しました。

この見学会は、大阪府港湾局旅客船「はまでら」に乗船して、海から港湾施設を見学するもので、見学当日は、大阪府港湾局担当者から分かりやすい説明をしていただき、児童たちは興味津々で聞き入っていました。

また、船上から阪九フェリー、大阪ガスLNGタンク、ガントリークレーン等、日頃見ることができない様々な港湾施設を見学し、大満足といった感じでした。

【開催日】

9月22日(木)	清高小学校4年生	65名
10月3日(月)	高陽小学校4年生	109名
10月4日(火)	高石小学校4年生	54名
10月6日(木)	取石小学校4年生	110名
10月7日(金)	高陽小学校4年生	96名



港湾施設の出前講座を開催

大阪府港湾局堺泉北港湾事務所

泉大津市内の小学校5年生を対象に、みなとや海岸に関心を持ってもらうことを目的に大阪湾広域臨海環境整備センター、泉大津市の協力を得て出前講座を行いました。

今年度は、泉大津市内の3校の小学校で出前講座を行い、大阪府港湾局からは「大阪府のみなとと海岸の勉強会」ということで、大阪のみなとや海岸の概要、津波・高潮、海岸施設の役割などについて説明を行い、特に大阪でも今後起こりうる津波については、シミュレーション動画などの説明に子供たちは熱心に聞き入っていました。

また、大阪湾広域臨海環境整備センターからは「ごみ処理についての勉強会」ということで、みんなの家庭などから出たごみのゆくえについて説明を行い、ごみの量などのクイズを盛り込んだ興味ある説明に子供たちも楽しく学んでいる様子でした。

最後に、関係機関の皆さまにご協力をいただき、無事終えることができました。ありがとうございました。

【開催日】

11月8日(火)	上條小学校	106名
11月11日(金)	穴師小学校	128名
11月24日(木)	浜小学校	133名



堺泉北港 みなと見学会実施

大阪府港湾局経営振興課経営振興グループ

日時:平成23年11月25日(金)午前9時30～

場所:塩浜埠頭発～堺泉北港～塩浜埠頭着

堺市立大仙西小学校3年生35名のみなさんが、港湾局の所有する船「はまでら」に乗船して、堺泉北港をめぐり、堺旧燈台、乙姫像、堺青果センターなどを船上から見学しました。

11月下旬ということもあり、少々風がきつく沖合には出ることができなかったものの、天候は晴、子どもたちは、日頃見ることの出来ない堺泉北臨海工業地帯の様々な工場など、海からの景色を大喜びで見つめながら、説明者の質問にもてきぱきと答えていました。



堺泉北港地元港湾振興会合同研修会開催

泉大津港湾振興会

泉大津市・堺市・高石市の港湾振興会が、堺泉北港の地元港湾振興会相互の連携を深め、会員相互の振興を図るため、三市振興会の輪番制により、講師を招き研修会を行なっています。

今年度は、平成23年11月25日(金)にホテルサンルート関空において、国・大阪府の関係機関等のご来賓を始め、各振興会の会員約60名の参加をいただき、震災や大雨などの災害の年、その後の日本経済の低迷、また、企業経営の先行きが見えない中、倒産が相次ぐという情勢を踏まえ、経済関係の研修会といたしました。

講師には、株式会社帝国データバンク堺支店長であります、赤塚裕章氏をお招きし、「最近の経済情勢と厳しい時代を生き抜いた企業に学ぶ」と題し講演いただきました。

株式会社帝国データバンクは、長年にわたり蓄積してきたデータベースとノウハウ、そして全国に広がるネットワークを活かし、質の高い情報と幅広いサービスを行なう会社であり、その中で、赤塚氏は約5,000社を調査するなど、豊富な経験を有しております。

講演は、日本の老舗企業の状況や何百年も続く会社や経営者の理念・ノウハウなど参加会員の興味を引く内容であり、熱心に聞き入っていました。



貿易実務セミナー開催

堺泉北港港湾振興連絡協議会・阪南港港湾振興連絡協議会

堺泉北港港湾振興連絡協議会と阪南港港湾振興連絡協議会では、港湾関連企業及び団体等の貿易担当者や新入社員の皆様の貿易実務能力向上の一助としていただくため、下記のとおり貿易実務セミナーを開催しました。

今年度は、昨年度好評であった「英文契約書入門編」を引き続き実施し、受講された方々は、実例を取り入れた講師の解説に熱心に耳を傾けておられました。

受講後のアンケートでは、「演習が多く分かりやすかった」「他の社員にも受講させたい」などのご意見を多数いただきました。本セミナーの受講により、貿易実務に関する知識の習得にお役立ていただけたものと考えております。



◇講師：中矢 一虎氏(国際法務(株)代表取締役 大阪市立大学商学部講師)

◇会場：堺泉北港ポートサービスセンタービル 2階 201・202会議室

◇開催時間：13:00～17:00

入門編	平成23年10月 4日(火)	参加者:38名
基礎編	平成23年10月 5日(水)	参加者:35名
英文契約書入門編	平成23年10月25日(火)	参加者:16名
応用編	平成23年10月26日(水)	参加者:14名

WELCOME!世界からのお客様

大阪府港湾局経営振興課経営振興グループ

■2011年11月2日(水)大阪府港湾局訪問

インドネシア共和国 東ジャワ州政府 人間居住・空間計画事業局

局長 ゲントゥール・プリハントノ氏(Mr.Gentur Prihantono)

空間計画部長 エンダー・アングレニ氏(Mrs.Endah Angren) ほかに5名

この度、大阪府と姉妹都市であるインドネシア・東ジャワ州より、都市空間計画をテーマに研修団が来日されました。

港湾局からは、1986年(昭和61年)に東ジャワ州タンジュンペラク港と姉妹港提携をしている堺泉北港の歴史や特色、港湾概要などを説明し、研修団からも、港の発展に伴う都市問題について質疑応答があるなど、活発な意見交換が交わされました。

意見交換の様子



東ジャワ州政府より記念品の授受



ようこそ大阪府営港湾へ ～初入港のご紹介～ 大阪府港湾局経営振興課経営振興グループ

大阪府港湾局では、府営港湾の公共埠頭に初めて入港する船舶に対し、大阪府港湾協会や地元市港湾振興会と協力して初入港の歓迎セレモニーや初入港記念楯の贈呈を行っています。

ちょうかい 7,250トン(基準排水量)

平成23年10月14日(金)

堺泉北港大浜埠頭第5号岸壁Aバース

海上自衛隊護衛艦



ちょうかいは、堺市で10月15日、16日に実施された「堺まつり」に合わせ、14日に入港しました。

ちょうかいは、平成10年に海上自衛隊が建造した4番目のイージスシステム搭載護衛艦であり、平成20年に弾道ミサイル防衛能力を付加された最新鋭艦です。

14日には、大阪府港湾局から初入港楯が、ちょうかいから返礼に乗艦記念楯が贈呈されました。

INFORMATION

在阪国家機関等に対する要望活動

府営港湾の整備促進のために、関係国家機関等に対し要望活動を行いました。

実施日:平成23年12月1日(木)、14日(水)、16日(金)

要望先	要望事項
近畿運輸局長	深日港における航路復活に向けた支援
第五管区海上保安本部長	堺泉北港への最新鋭の消防船等の配備/体験航海行事のための巡視船派遣の継続
大阪海上保安監部長	堺泉北港への最新鋭の消防船等の配備/体験航海行事のための巡視船派遣の継続
大阪海上保安監部 堺海上保安署長	堺泉北港への最新鋭の消防船等の配備
近畿地方整備局長	大和川へのゴミの不法投棄取締り強化及び河川敷のゴミの除去清掃
近畿地方整備局 大和川河川事務所長	大和川へのゴミの不法投棄取締り強化及び河川敷のゴミの除去清掃
大阪府知事	府営港湾の整備、維持管理等に関する事項

運営委員会

<平成23年度 第2回>

日 時：平成23年10月19日(水) 午前10時～

場 所：堺泉北港ポートサービスセンタービル 2階 201・202号室

議 事：①平成23年度在阪国家機関等に対する要望について

②その他